

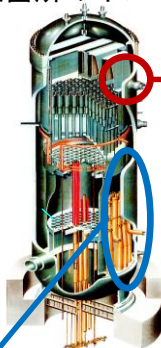
福島第二原子力発電所からのお知らせ（平成27年7月号）

福島第二原子力発電所 1～4号機は、安定した燃料の冷却を継続しています。発電所の最新状況や、様々な取り組みをお知らせします。

3号機の原子炉内構造物の点検を行い 健全性を確認しました

- 当所3号機において、東北地方太平洋沖地震による影響に関する知見の拡充等を目的として、以下の原子炉内構造物について、7月10日から16日にかけて点検を行いました。
- 結果、各機器の機能に影響を与えるような異常はありませんでした。
- 点検は、作業員の安全を確保したうえで、原子炉建屋最上階に設置してある作業用台車の上から、原子炉内等にある点検対象物まで水中カメラを吊り下ろし、熟練した作業員が同台車上に設置したモニターに映る映像で各機器の健全性を確認しました。
- また、映像については、事務所においても確認を行い、最終的に対象の原子炉内構造物の機能に影響を与えるような異常はないことを確認しました。

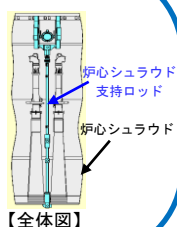
○点検箇所のイメージ



原子炉圧力容器

炉心シュラウド支持 ロッド（4箇所）

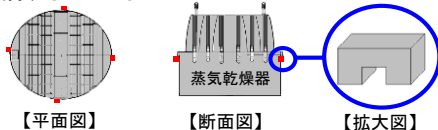
応力腐食割れ対策として2・3号機に設置している機器で炉心シュラウドを上下方向に挟み込み、締付け固定する支柱



【全体図】

蒸気乾燥器耐震用ブロック（4箇所）

凹型を逆さまにしたような部材で蒸気乾燥器側面中央部に溶接され、当該乾燥器支持ブラケットの上にはめ込み、当該乾燥器を支持するためのもの



【平面図】

【断面図】

【拡大図】

蒸気乾燥器支持ブラケット（4箇所）

原子炉圧力容器の内壁に溶接されている棒状の部材で蒸気乾燥器耐震用ブロックをはめ込むことで、蒸気乾燥器を支持するもの



【平面図】

【断面図】

【拡大図】

* 上記機器は、4号機の原子炉内点検時に蒸気乾燥器支持ブラケット上部に蒸気乾燥器耐震用ブロックとの接触によるものと推定される軽微な損傷（割れ）が確認されたことから（2012年12月5日お知らせ済み）、その水平展開として点検しました。

「技術・技能大会」で訓練の成果を確認しました

- 震災の教訓から発足した4つのチーム*による直営技術力強化訓練はこの7月で3年目になります。これらの訓練の成果を確認する「技術・技能大会」は、先月号で紹介したガレキ撤去、モータ取替チームに引き続き、ケーブル接続、ポンプ復旧チームの実技が行われ、すべて終了しました。
- 昨年開催された大会では、1年間の訓練の成果として、各チーム毎に緊急時対応ができることを確認したことから、2年目以降は、発電所全体の緊急時対応力の底上げを図るため、各チームのメンバーを相互に入れ替えた新チーム体制で訓練を行ってきました。
- 大会では、最終的に4チームそれぞれが与えられた課題を安全・的確に実施できており、着実に総合力が向上してきていることが確認できました。

*震災の教訓から発足した4つのチーム

平成25年7月、震災時の経験から得た教訓をもとに、4つのチーム（ガレキ撤去、モータ取替、ケーブル接続、ポンプ復旧）を結成し、機器が壊れた場合でも当社社員単独で対応できる技術力の習得訓練を計画的に行っています。



ケーブルドラムの積み込み



ポンプ軸受カバーの組み立て

○ケーブル接続チームでは、クレーン付きのトラックなどを使い、以下の項目を実施して、仮設ケーブルを敷設・接続します。

- ①トラックへのケーブルの積み込み
- ②ケーブルの移動、敷設
- ③ケーブル端末処理、電源盤への接続

○ポンプ復旧チームでは、ガスバーナーなどを使い、以下の項目を実施して、使用できなくなったポンプの軸受を取り替えます。

- ①軸受カバーの分解
- ②軸受の取り外し・取り付け
- ③軸受カバーの組み立て

安全活動がより定着した職場を目指します

- 当所では、日頃から安全な職場環境を確保し、事故の未然防止を図るために様々な安全活動を実施しています。毎年7月は、日々の安全活動をより一層定着させるため、「夏期安全活動強化運動」を実施しています。
- 強化運動期間中は、夏場特有の蜂刺されや熱中症の未然防止のため、垂れ幕やパンフレットで趣旨の周知や活動の徹底を図っています。
- また、日々の取り組みの一つとして、発電所幹部が現場の安全パトロールを行い、作業員とのコミュニケーションを図るとともに、危険箇所の抽出と改善、不安全行動への指摘、良好事例の共有等を行っています。
- 「夏期安全活動強化運動」期間後も、これらの安全活動を継続し、災害のない、安全な作業環境づくりに努めていきます。



事務本館玄関に垂れ幕の設置



構内15箇所に設置した蜂トラップ



作業前の打ち合わせに参加



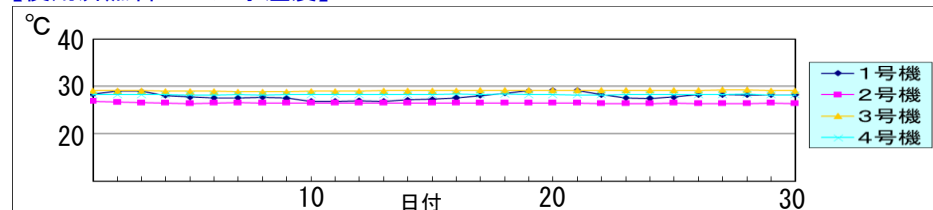
高所作業における安全確保状況の確認

防災・放射線安全部長によるパトロールの風景

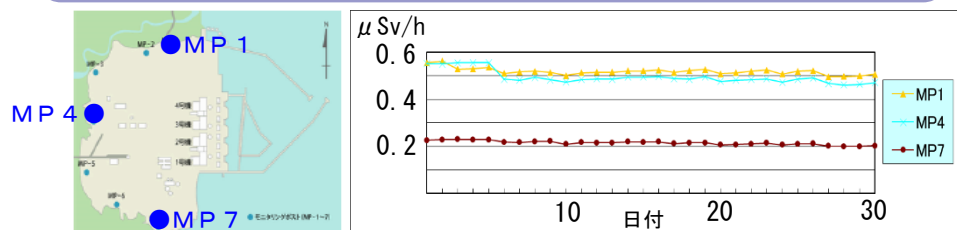
燃料の冷却状況（6月分）

使用済燃料プール水の温度は、30℃程度で安定して推移しており、燃料の冷却を維持しています。

【使用済燃料プール水温度】



モニタリングポスト（MP）の計測状況（6月分）



計測地点 設置しているMP7基のうち、3基を代表で記載しています。

さらに詳しい情報は当所ホームページをご覧ください。 <QRコード>
<URL> <http://www.tepco.co.jp/nu/f2-np/index-j.html>



総合訓練を重ねることで緊急時における対応力の向上に努めています

- 当所では、原子力災害発生時に事態の収束や復旧等、的確な対応ができることを確認するため、総合訓練を実施しています。今年度は4回の訓練を計画しており、その1回目となる訓練を6月25日に実施しました。
- 今回は、緊急時対策本部長（所長）や各班の責任者の代務者が指揮をとり、地震や津波等の影響により外部電源や冷却機能が失われた状況を想定して実施しました。
- 訓練中は、本部長以下、各指揮者の下で、プラントや現場の状況等がすみやかに緊急時対策本部へ伝達されるとともに、同本部からの的確な指示で、各要員が迅速に対応できていることを確認しました。
- 引き続き訓練を積み重ね、評価を行い改善していくことで、所員の防災意識と緊急時の対応力の向上に努めていきます。



緊急時対策本部での訓練の様子